防災歳時記（59）

—冬の嵐が列車を倒し船を沈めた—

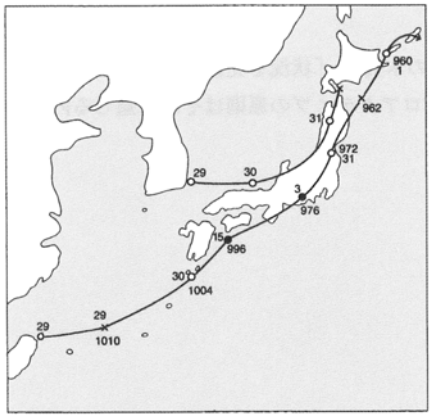
（「昭和 45 年 1 月低気圧」）

NHK 放送用語委員会専門委員
元　気象庁天気相談所長
宮　澤　清　治

「爆弾低気圧」が列島を襲った

1970(昭和 45)年 1 月 30 日から 2 月 2 日にかけて台湾付近で発生した低気圧(当時は"台湾坊主"と呼んだ)が本州南岸を進み、日本海低気圧と合体して台風並みに発達した。このため、東日本・北日本は猛烈な暴風雪や高波に見舞われ、一部で竜巻が発生した。

最大瞬間風速(m/s)は、1 月 31 日に岩手



昭和45年 1 月低気圧の経路
(数字は日付と気圧、○：午前 9 時、×：午後 9 時の位置)

県宮古市でSE36.7、青森県八戸市でSE33.4、宮城県石巻市で SE30.2、福島市でWNW28.0(いずれも 1 月として観測史上 1 位)を記録した。また、大雪や大雨が降り、日降雪量が 1 月 31 日に札幌市で 63cm(観測史上 1 位)、日降水量が栃木県日光市で 126mm(1 月として観測史上 1 位)を観測し、新潟県佐渡や西蒲原郡で竜巻が発生した。

1 月 31 日に低気圧が通過した 12 の地点で、観測史上最低の気圧(hPa)を記録した。例えば仙台市 967.1、宮古市 963.6、八戸市 962 ユなど。最低気圧は台風の通過によって観測されることが多いが、低気圧による例は珍らしい。

北緯 40 度付近で、中心気圧が 24 時間に 18hPa 以上低下する温帯低気圧を「爆弾低気圧」と呼ぶことがある(気象庁では「急速に発達する低気圧」などと呼ぶ)。1 月 31 日午前 9 時、低気圧の中心気圧は前 24 時間に 32hPa も低下した。「超爆弾低気圧」と言えるほど猛烈な低気圧であったことを示している。

なお、1954 年 5 月 9 日の史上最悪のメイストームでは、24 時間に 36hPa の気圧低下を示した。

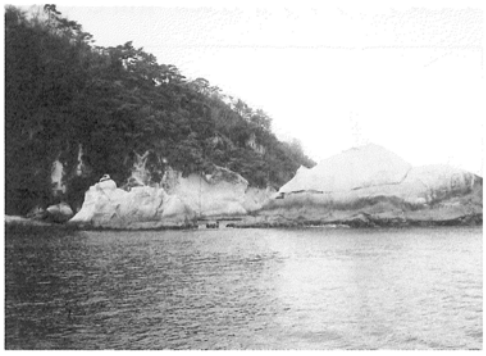
松島湾に浮かぶ小島が消えた

1月31日午後5時ごろ、栃木県那須町の東北本線豊原駅北で貨物列車の2両が強風のために脱線転覆したが、けが人は無かった。31日午後は福島県から宮城県にかけての鉄道沿線では最大瞬間風速40～50m/sの暴風が吹き、列車を最寄りの駅に緊急避難させた。

福島県いわき市小名浜港では、貨物船空光丸(11,463トン)が強風を受けて沈没し、乗員15人が死亡また行方不明となった。青森県では強風で小学校の屋根が吹き飛ぶなどの被害が相次いだ。北海道では大雪や大雨のため、鉄道や航空のダイヤが乱れ、漁師が荒波にさらわれ行方不明になった。

新潟県では31日朝、南魚沼郡塩沢町(現、南魚沼市)の倉沢川の堤防が幅20mにわたって切れ、床上・床下浸水10棟。糸魚川市や青海町、名立町(現、上越市)では1日夜にかけて10m近い高波が打ち寄せて護岸が決壊した。突風や竜巻のため、北蒲原郡などで工場などが倒壊。負傷者6人。

富山県でも入善町や滑川市で高波が防波堤を乗り越え、住家へ浸水して負傷者10人を出した。



松島湾に浮かぶ小島（宮城県）

31日の大しけがおさまった2月1日朝、宮城県塩竈市浦戸の寒風沢島の島民が韮浜海岸に出てみると、50m前方に浮かんでいるはずの「荒岬島」の姿がかき消すようになくなっており、「どうした、どうした」と大騒ぎ。

この島は松島湾にある面積50㎡ぐらいの三角形の小島で、格好がよいので土地の人たちは「カブト島」「ライオン島」の愛称で呼んでいた。景勝"松島湾"には大小300近い島があるが、この島は釣り場として有名だった。それが島はじまって以来という15～20mの大波に洗われ、もろくも海中に崩れて落ちて"まぼろしの島"となってしまった(2月2日付朝日新聞)。

被害は、中部地方以北で死者14人、行方不明者11人(うち福島県で16人)、負傷者45人、住家の全半壊916棟、床上・床下浸水4,422棟、船舶の沈没・流失・破損293隻などを数えた。

気象庁は、この低気圧を「昭和45年1月低気圧」と命名した。大きな災害をもたらした台風、豪雨、地震などについては命名する例は数多いが、低気圧に命名したのはこれが唯一の例である。

発達した低気圧による冬の嵐といっても軽視できない。台風に匹敵するほど被害が極大化する。近年は三陸沖を北上する爆弾低気圧が増える傾向にあると言われる。災害の記憶をとどめることが次の被害を小さくする。